



思ったことを附箋に書き出しグループ討議する参加者たち

みんなの力で防災に強いまちづくりを実践しようとして下妻青年会議所主催の「協働型災害ボランティアプログラム研修会」が下妻公民館で開催され、同会議所メンバーをはじめ、ボランティア団体、市社会福祉協議会、市職員など60人が参加しました。

講師は、公益社団法人中越防災安全推進機構の地域防災センターで防災人材育成チームのチームコーディネーターを務める河内毅さん。被災地域でのボランティアセンター立ち上げなどの経験から、災害現場で起こる状況が説明され、グループ討議では各団体の活動や役割を理解してお互いのつながり方を模索しました。

市社協の倉持京美係長は「ボランティアを運営する上で、人づくりに関わるメンバーと知り合えたことが大きな収穫」と今後の活動に期待を語り、同会議所の野村尚仁さんは「災害に備えて地域のコミュニティを高めていく必要を感じた。地域のリーダーとなる自治区長も一緒に定期的に研修するなど、横のつながりを築いていくべきでは」と感想を話しました。

地域社会の防災力の向上を目指して 協働型災害ボランティアプログラム研修会 7月20日

スポーツ & カルチャー

がんばる小・中学生!!

小学生

- 第36回女子県西地区ミニバスケットボール春季大会
優勝 下妻ミニバスケットボールスポーツ少年団
- 第35回五霞近隣バレーボールスポーツ少年団大会
優勝 スマイルキッズスポーツ少年団
- 第25回日整全国少年柔道大会茨城県大会
優勝 小学4年生の部
杉山 諒成（下妻優心塾）【全国大会出場】



打席で悠々と構えをとる大山選手

声援熱く、侍ジャパン大学日本代表「大山悠輔選手」に 日米大学野球選手権大会第3戦に下妻市民の応援団 7月15日

新潟、東京、静岡で7月12～17日、全5試合が行われた「第40回日米大学野球選手権大会」。その全試合に下妻市出身の大山悠輔選手（白鷗大4年）が、侍ジャパン大学日本代表の4番・サードで出場し、3勝2敗で日本チームの優勝に貢献しました。

下妻市体育協会は7月15日、第3戦が行われた東京・明治神宮野球場に同会交流会メンバー30人が観戦し、「燃えろ！大山」など書かれた応援グッズを片手に熱い声援を送りました。大山選手はこの試合で好守備や四球で出塁を見せましたが、1対0で日本チームは惜敗でした。

大会終了後、「慣れない大舞台で緊張しましたが、皆さまの温かい声援のおかげでいつもどおりの気持ちでプレーができました」と感謝の言葉を述べた大山選手。「この経験を生かし、下妻市の皆さまに良い報告ができるよう、一日一日を大切に頑張りたい」と今後の抱負を語りました。



応援グッズを持ち声援を送る下妻市体協メンバー



オオムラサキと森の文化の会は、小貝川ふれあい公園自然観察ゾーンで、国蝶オオムラサキの生息保護活動を続けて28年目になります。

「市内に残された貴重な森や自然にぜひ触れて欲しい」と同会が主催するオオムラサキ

成虫観察会に、市内外から親子連れや写真愛好家など約50人が集まりました。

観察会は、同会員たちからオオムラサキの一生や保護活動について説明＝写真＝を受けた後、森に入って成虫を探して観察するもの。この日は運よくオオムラサキが飛んでいる姿を見ることができ、つくば市から参加した男子小学生は「飛ぶのが速くてびっくりした」と目を丸くしていました。

本橋孝夫会長は「貴重な自然を次世代に引き継いでいきたい。他の地域からも保護活動に参加してもらえたら」と呼び掛けています。

国蝶オオムラサキ「飛ぶのが速いね」 オオムラサキ成虫観察会 7月10日



大玉すいかの試食を手にする参加者

東京都およびその近郊に在住・在勤する茨城県出身者で組織される「茨城県人会連合会」の懇親会で、下妻市の特産品や観光をPRしました。

会場となった東京都文京区の椿山荘には、各界で活躍する同会関係者約500人が参集。県内の市町村や観光・物産関連などの趣向を凝らした31団体のブースが軒を並べました。

本市のブースでは、季節の新鮮野菜や果物をはじめ、ビアスパークしもつまの地ビール、梨のリキュール、ウィマムの手作りウイナーなどの特産品を試食でアピール。平成27年9月にリニューアルオープンした道の駅しもつまや砂沼サンビーチなどの観光・イベント情報と合わせて下妻市をPRしました。

タカミメロンを試食した江戸川区在住の60代女性は「甘くて、みずみずしくておいしい。下妻市にこんなにたくさんの特産品があるなんて知らなかった」と話していました。

下妻市の特産品に舌鼓、観光PRも 茨城県人会連合会総会・懇親会 6月30日



懐かしの「自動券売機」が、関東鉄道常総線の騰波ノ江駅舎内にある「とばのエステーションギャラリー」で公開されました。

昭和49年製造の自動券売機は、黒子駅で約30年前まで使用されていたとされるもので、平成15年の駅舎改築で処分されるどころ、関東鉄道ファンCLUBの十文字義之会長が鉄道遺品として歴史的価値があると判断し、関東鉄道に依頼して下妻駅保線区の詰所に保管されていました。

同機は、硬貨専用の押しボタン式で、大人ボタンは110円から830円までの設定。下部の子どもボタンには、誤押防止の赤い蓋がついています。

同CLUBの十文字会長は「切符が電子化される中で、子どもたちには『切符を買って電車に乗る』というプロセスを知ってもらい、大人には懐かしい思いをしてもらえたら」と話し、広報担当の筑峯紫穂さんは「券売機の文字がめずらしい形でかわいい。たくさんの人に見てもらいたい」と笑顔で来場を呼び掛けていました。券売機の公開は、毎月第3土曜と翌日の日曜で、鉄道模型運転会等のイベントも行われています。

懐かしの「自動券売機」公開 とばのエステーションギャラリー特別展示 7月16日



自動券売機をPRする関東鉄道常総線の美妻袖衣さん(左)と関東鉄道ファンCLUB広報担当の筑峯紫穂さん(右)